



平成31年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年10月31日

上場会社名 ワタベウェディング株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4696 URL <https://www.watabe-wedding.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 花房 伸晃
 問合せ先責任者 (役職名) グループ管理本部長 (氏名) 鈴木 眞治 TEL 075-778-4111
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月1日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績（平成30年4月1日～平成30年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	22,603	6.1	△453	—	△340	—	△537	—
30年3月期第2四半期	21,313	3.1	△264	—	△230	—	△247	—

(注) 包括利益 31年3月期第2四半期 △432百万円 (—%) 30年3月期第2四半期 △279百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	△54.21	—
30年3月期第2四半期	△24.95	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第2四半期	25,061	9,952	39.7
30年3月期	24,354	10,451	42.8

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 9,938百万円 30年3月期 10,425百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
31年3月期	—	0.00	—	—	—
31年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 平成31年3月期の期末配当予想額は未定としております。

3. 平成31年3月期の連結業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	47,000	4.1	500	△34.9	500	△26.1	200	17.0	20.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年3月期2Q	9,909,400株	30年3月期	9,909,400株
② 期末自己株式数	31年3月期2Q	522株	30年3月期	522株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年3月期2Q	9,908,878株	30年3月期2Q	9,908,949株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料等に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は平成30年11月1日に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) キャッシュ・フローに関する説明	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における運営状況と経営成績について、「リゾート挙式」におきましては、国内外で発生した自然災害（ハワイのハリケーン接近、台風による関西国際空港閉鎖など）による影響を一部受けたものの、7月にオープンした沖縄・古宇利島の「古宇利島 空と海の教会」が順調に稼働し、ハワイ・コオリナ地区に10月にリニューアルオープンの「コオリナ・チャペル・プレイス・オブ・ジョイ」が引き続き好調に受注獲得をするなど、主力エリアにおける新施設プロモーションを積極的に行い、リゾート挙式の価値提案を図りました。さらに、4月に旅行会社の株式会社コンパクトシークを子会社化したことによる収益寄与に加え、グループシナジーを活かした当社限定の旅行商品を新たに開発・販売するなど、挙式に付随する各種付帯商品（旅行・衣裳・映像など）のラインナップ強化を図り、1組当たり単価が向上いたしました。

また、リゾート挙式の認知拡大と販売強化を図るべく、全国の直営店舗の再編を進め、4月から6月にかけて移転・リニューアルを実施した福岡・名古屋エリアの来店が好調に推移いたしました。

さらに、近年世界各地からの旅行者が増加し、観光地として急成長が期待されるリゾート地、ベトナム・ダナンでのウェディングプランを9月より販売を開始し、国内外の顧客獲得に向け新エリア展開をスタートいたしました。

「ホテル・国内挙式」におきましては、ホテル雅叙園東京では、国内外へ向けたブランド戦略を積極的に展開すべく、90周年事業コンセプト「A MUSEUM HOTEL of JAPAN BEAUTY」を推進し、婚礼・宿泊共に好調に推移いたしました。また、9月には大宴会場「舞扇」をリニューアルし、婚礼だけではなく、国際会議利用などのMICE誘致を開始いたしました。メルパルクでは、前期に実施した付加価値向上のための客室リノベーション効果により、稼働率・客室単価が向上いたしました。台風21号など各地で発生した自然災害の影響があったものの、地域密着型の施設としての特性を活かした地元宴会の取り込み、グループの人材リソースを活用した婚礼強化プロジェクトの推進による挙式組数の増加など、収益向上に寄与いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高22,603百万円（前年同四半期比6.1%増）、営業損失453百万円（前年同四半期営業損失264百万円）、経常損失340百万円（前年同四半期経常損失230百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失537百万円（前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純損失247百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、以下の数値は、セグメント間の取引消去後となっております。

① リゾート挙式

挙式取扱組数は減少したものの、顧客ニーズに合わせた商品展開を行ったことなどにより、1組当たり単価が増加し、売上高は9,443百万円（前年同四半期比9.8%増）となりましたが、利益面につきましては、新施設や新事業立ち上げに伴う広告宣伝費、専門人材採用などコスト先行による販売管理費の増加により、セグメント損失は673百万円（前年同四半期セグメント損失234百万円）となりました。

② ホテル・国内挙式

積極的なブランド価値訴求や客室リノベーションなどの効果により、売上高は13,160百万円（前年同四半期比3.5%増）となったほか、利益面につきましては、原価や販売管理費の削減に努めた結果、セグメント利益は207百万円（前年同四半期セグメント損失44百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第2四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ719百万円減少し、9,454百万円となりました。これは主に現金及び預金の減少によるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,427百万円増加し、15,607百万円となりました。これは主に建物及び構築物の増加によるものであります。この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べ707百万円増加し、25,061百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ1,295百万円増加し、11,618百万円となりました。これは主に短期借入金や前受金の増加によるものであります。固定負債は前連結会計年度末に比べ88百万円減少し、3,491百万円となりました。これは主に長期借入金の減少によるものであります。この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ1,207百万円増加し、15,109百万円となりました。

純資産残高は、前連結会計年度末に比べ499百万円減少し、9,952百万円となりました。これは主に利益剰余金の減少によるものであります。

(3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが34百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが1,542百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが679百万円の収入となり、この結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、5,929百万円（前年同四半期は7,096百万円）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は34百万円（前年同四半期比96.5%減）となりました。これは、税金等調整前四半期純損失513百万円等があったものの、減価償却費710百万円、前受金の増加額453百万円等があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は1,542百万円（前年同四半期比10.8%減）となりました。これは、有形固定資産の取得による支出1,319百万円等があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果獲得した資金は679百万円（前年同四半期比71.7%減）となりました。これは、長期借入金の返済による支出200百万円等があったものの、短期借入金の純増加額950百万円があったことによるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間におきましては、業績は概ね計画通り推移していることから、平成30年5月10日発表の業績予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,689	5,934
売掛金	1,630	1,531
商品	220	244
原材料及び貯蔵品	410	415
その他	1,242	1,347
貸倒引当金	△19	△19
流動資産合計	10,173	9,454
固定資産		
有形固定資産		
貸衣裳(純額)	104	108
建物及び構築物(純額)	4,980	5,434
器具備品(純額)	1,191	1,295
土地	1,893	1,893
その他(純額)	455	818
有形固定資産合計	8,626	9,550
無形固定資産		
のれん	574	708
その他	597	679
無形固定資産合計	1,171	1,387
投資その他の資産		
差入保証金	2,718	2,711
その他	1,667	1,961
貸倒引当金	△3	△3
投資その他の資産合計	4,382	4,669
固定資産合計	14,180	15,607
資産合計	24,354	25,061

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,801	1,676
短期借入金	1,950	2,900
前受金	2,788	3,528
賞与引当金	711	653
その他	3,071	2,859
流動負債合計	10,322	11,618
固定負債		
長期借入金	1,400	1,200
退職給付に係る負債	1,192	1,228
資産除去債務	805	877
その他	181	185
固定負債合計	3,579	3,491
負債合計	13,902	15,109
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,176	4,176
資本剰余金	4,052	4,051
利益剰余金	2,701	2,110
自己株式	△0	△0
株主資本合計	10,929	10,337
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	23	24
繰延ヘッジ損益	△43	44
土地再評価差額金	△903	△903
為替換算調整勘定	485	494
退職給付に係る調整累計額	△64	△57
その他の包括利益累計額合計	△503	△398
非支配株主持分	25	13
純資産合計	10,451	9,952
負債純資産合計	24,354	25,061

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	21,313	22,603
売上原価	6,657	7,282
売上総利益	14,656	15,321
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	4,982	5,175
賞与引当金繰入額	420	586
退職給付費用	87	100
賃借料	2,516	2,623
その他	6,912	7,287
販売費及び一般管理費合計	14,920	15,774
営業損失(△)	△264	△453
営業外収益		
為替差益	97	118
その他	48	53
営業外収益合計	145	171
営業外費用		
休止施設費用	103	48
その他	8	10
営業外費用合計	112	58
経常損失(△)	△230	△340
特別利益		
受取補償金	—	13
その他	6	2
特別利益合計	6	16
特別損失		
施設店舗整理損	63	158
その他	1	30
特別損失合計	65	189
税金等調整前四半期純損失(△)	△289	△513
法人税等	△48	23
四半期純損失(△)	△240	△537
非支配株主に帰属する四半期純利益	6	0
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△247	△537

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
四半期純損失(△)	△240	△537
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	1
繰延ヘッジ損益	△17	88
為替換算調整勘定	△12	5
退職給付に係る調整額	△11	6
持分法適用会社に対する持分相当額	0	3
その他の包括利益合計	△39	105
四半期包括利益	△279	△432
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△286	△432
非支配株主に係る四半期包括利益	6	0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△289	△513
減価償却費	693	710
のれん償却額	15	31
施設店舗整理損	63	158
賞与引当金の増減額(△は減少)	△136	△71
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	6	44
受取利息及び受取配当金	△8	△7
支払利息	2	6
為替差損益(△は益)	△31	△50
売上債権の増減額(△は増加)	7	100
たな卸資産の増減額(△は増加)	△31	△34
前払費用の増減額(△は増加)	△75	△168
仕入債務の増減額(△は減少)	49	△139
未払金の増減額(△は減少)	△138	△211
前受金の増減額(△は減少)	572	453
その他	291	△181
小計	991	128
利息及び配当金の受取額	8	6
利息の支払額	△4	△1
法人税等の支払額	△287	△324
法人税等の還付額	279	225
営業活動によるキャッシュ・フロー	986	34
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,611	△1,319
有形固定資産の売却による収入	6	3
無形固定資産の取得による支出	△41	△218
差入保証金の差入による支出	△124	△38
差入保証金の回収による収入	64	31
連結の範囲の変更を伴う関係会社株式の取得による支出	△13	—
連結の範囲の変更を伴う関係会社株式の取得による収入	—	55
その他	△9	△57
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,729	△1,542
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	745	950
長期借入れによる収入	1,800	—
長期借入金の返済による支出	△62	△200
配当金の支払額	△49	△49
連結の範囲の変更を伴わない関係会社株式の取得による支出	△20	△13
その他	△15	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,397	679
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	72
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,664	△755
現金及び現金同等物の期首残高	5,431	6,685
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,096	5,929

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・ 国内挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	8,599	12,714	21,313	—	21,313
セグメント間の内部売上 高又は振替高	3,279	69	3,348	△3,348	—
計	11,878	12,783	24,662	△3,348	21,313
セグメント損失(△)	△234	△44	△279	14	△264

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額14百万円は、主にセグメント間取引消去と未実現利益消去によるものであります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・ 国内挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	9,443	13,160	22,603	—	22,603
セグメント間の内部売上 高又は振替高	3,767	67	3,834	△3,834	—
計	13,210	13,228	26,438	△3,834	22,603
セグメント利益又は損失 (△)	△673	207	△466	13	△453

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額13百万円は、主にセグメント間取引消去と未実現利益消去によるものであります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。